

9月13日(金)～15日の3日間、長野県木曾町と王滝村で開催された地震の学会(第41回歴史地震研究会(木曾御嶽大会))に参加を致しました。1984年9月14日に発生をした長野県西部地震(長野県王滝村を震源とするマグニチュード6.8の地震)から40年の節目をむかえ、当地において開催されました。また、2014年9月27日に発生をした御嶽山の噴火から10年の節目をむかえます。

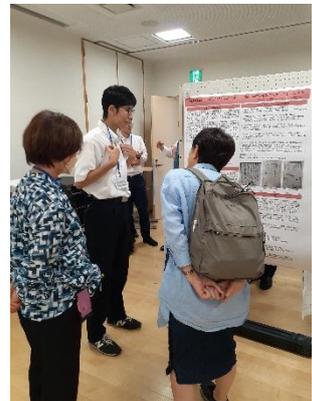
### ◎研究会(口頭発表セッションとポスターセッション)

9月13日と14日の2日間は、木曾町文化交流センターにおいて、研究会(口頭発表セッションとポスターセッション)がおこなわれました。口頭発表は、「長野県西部地震と山津波災害 一生還者の証言と教訓」、「善光寺地震(1847)の余震・鳴動記録と活動範囲」といった、長野県で過去に発生した被害地震に関する研究発表が複数ありました。また、濃尾地震・1703年元禄関東地震・1707年宝永地震・1751年宝暦越後の地震といった日本各地で発生した地震や1870年伊豆諸島南部の海底火山噴火といった火山をテーマとした発表も、たいへん興味深く、聴講することから地震について多角的に学びました。



### ◎ポスターセッションでの発表

研究会2日目には、口頭発表セッションとあわせてポスターセッションもおこなわれ、「埼玉県所沢市に残る日記から読み取れる1923年以前の地震」をテーマとした研究発表をさせて頂きました。80分間程のポスタータイムには、途切れることなく多くの研究者の方々がポスターを見て下さり、それぞれコメントや質問を頂き、議論を深めることができました。



### ◎巡検

研究会の3日目は、巡検と公開講演会・地域交流会がおこなわれました。午前中は、1984年長野県西部地震の発生により崖崩れが起きた当時の現場に建てられた慰霊碑や、長野県立御嶽山ビジターセンター(同地震の発生が引き金となり御嶽山の山頂付近の斜面が山体崩壊した「御嶽崩れ」の源頭部を見学できる場所)を訪れました。また、2014年9月27日に発生した御嶽山の噴火に関する慰霊碑(写真)を訪れました。あいにくの雨や霧の中での巡検でしたが、地震や噴火の当時、この地で起きていたことを十分に感じる事ができました。



### ◎公開講演会・地域交流会

研究会3日目の午後は、王滝村公民館において、「長野県西部地震から40年」をテーマにした公開講演会・地域交流会がおこなわれました。地震の発生当時から現地で地震観測を続けている京都大学の研究者、王滝村の村史の編纂や学校教育に携わられた地元の方々のお話を聞きました。規模の大きな地震の震源の真上付近では重力加速度を超えた振動により、屋内においては戸棚等が飛んでくることや、屋外においては石が飛んでくることあり得る等、長野県西部地震の生の体験談から学ぶことが多くありました。



## ◎懇親会

1 日目の研究会後には、宿泊地のおんたけ休暇村において懇親会が催されました。地元産の食材も豊富に利用した料理を味わいながら、研究会の参加者どうしの親睦を深める場になりました(写真 左下)。また、研究会に参加をしている大学生とも交流の輪ができました(写真 中央)。懇親会を含む会食の席で、現在取り組んでいる我々の研究の展望・関連する研究の発案を頂き、そのような意味でも貴重な機会となりました。地元の「木曾踊り」を皆で踊り、これもまた良い思い出となりました(写真 右下)。



## ◎今後の展望

今回の研究会を経て今後は、日記に記されている地震の震源と所沢市域での揺れの関係に注目し考察を進めます。また、日記に記されている未だ読み取れていない地震が無いか、読み取り調査を継続しておこなう予定です。以上の考察や継続調査をおこなった成果をまとめた論文を、学術誌『歴史地震』に投稿します。